

福島関東病理法医連携プログラム「つなぐ」 高校生対象 病理学・法医学セミナー が開催されました



死因究明を担う病理学・法医学の医師の仕事って？

病理学や法医学に携わる医師は、病気の診断や亡くなった方の死因究明のために日々活躍していますが、残念ながら一般の方にはあまり知られていません。そこで今回、病理医や法医の仕事の一端を覗いてもらうことを目的に、高校生を対象としたセミナーを10月6日（土）東京大学医学部2号館小講堂で開催しました。

病理医 (Doctor of doctors) は縁の下の力持ち

冒頭の人体病理学講座 深山正久教授の挨拶に続いて、同講座 阿部浩幸講師より病理医の仕事についての講演が行われました。病理医が普段行っている仕事の「病理組織診断」と「病理解剖」がどのように行われているか、具体例や動画を交えて説明がありました。阿部先生の丁寧な解説で病理の世界が身近に感じられました。

顕微鏡を使ってがんの組織をみてみよう！

普段大学生が実習で使用している顕微鏡を用いて、がんの組織や身の回りのものを観察しました。顕微鏡の使い方や標本の見方を、実際の病理医に教わりながら体験しました。



法医学の少しざんねんな現実と、「つなぐ」未来

実習の後は再び小講堂で、法医学講座 榎野陽介准教授より法医学者の仕事についての講演が行われました。法医学の概要と日本の法医学制度の現実について説明がありました。法医学は「国民の権利を守る」学問であるという榎野先生の熱い思いが伝わる講演でした。

参加した高校生はドラマや本などを通して病理学や法医学に興味を持った方が多かったようです。今回は普段はなかなか出会うことのない、実際に病理学や法医学に携わっている医師の話聞く機会ということで、興味・熱意を持って参加していました。今後はさらに進化した内容で、皆さんの興味に応えていきたいと思えます。またのご参加お待ちしております！



主催 東京大学 順天堂大学 福島県立医科大学